CASBEE®-建築（新築）2021年SDGs対応版　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要

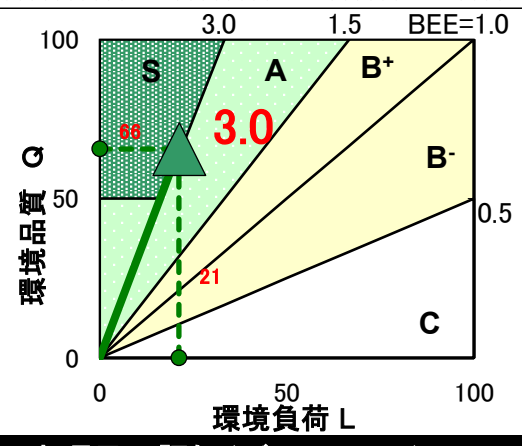
建物名称	(仮称)技術C付属棟新築工事	階数	地上2F
建設地	神奈川県厚木市小野字宝蔵山2025	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	58 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年（想定値）
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年9月　予定	評価の実施日	2025年3月7日
敷地面積	1,607 ㎡	作成者	栗田 敦司
建築面積	314 ㎡	確認日	2025年3月28日
延床面積	628 ㎡	確認者	奥村 洋治

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート

BEE =3.0

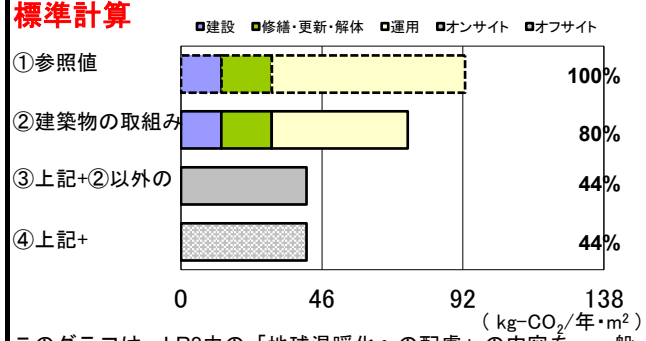
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

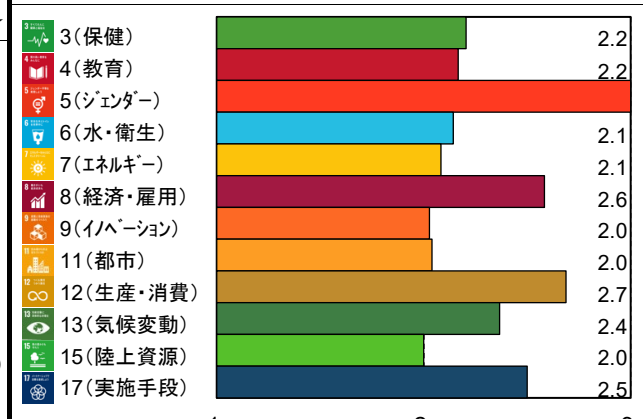
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

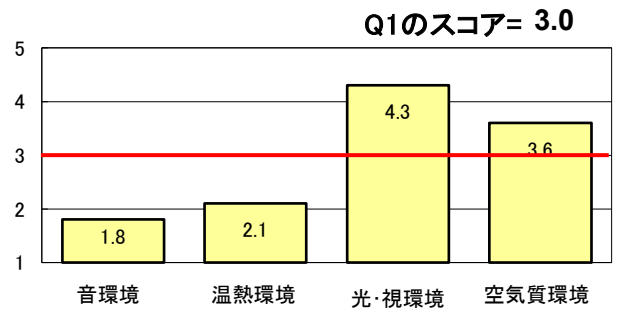


* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

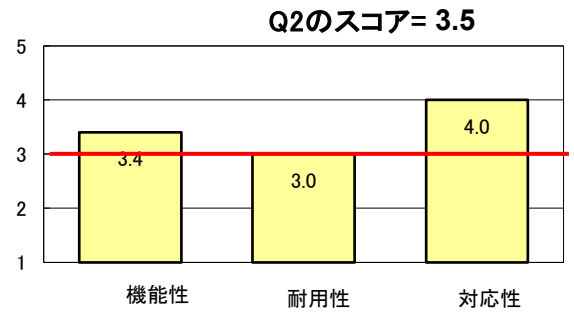
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.6

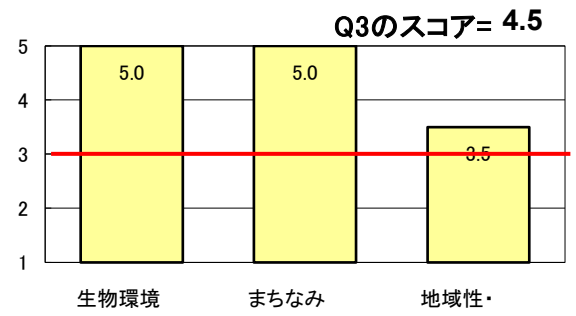
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.5

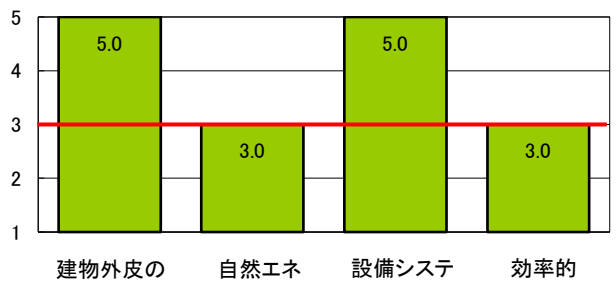


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 4.5

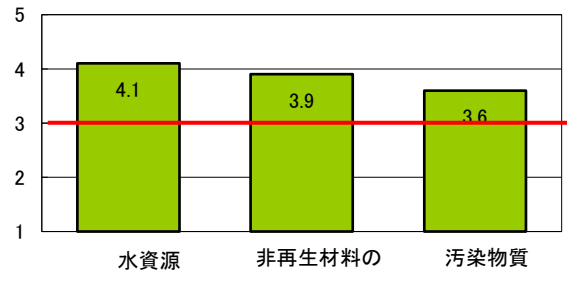


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 4.1

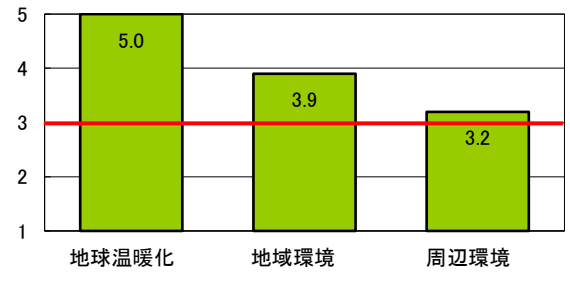
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.4



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.9



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=4.0



3 設計上の配慮事項

総合	その他
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	特になし。

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
2.5%≦ [昼光率] ブラインドと庇を組み合わせることでグレアを制御します。 居室の換気量は30㎥/ｈ人以上。	事務室の天井高2.9m以上 執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース＋自動販売機等の設置	外構緑化指数が65.32%，建物緑化指数が24.04% 植栽により、良好な景観を形成している。 空地率が64.40%，屋根面対策面積率が5.01%
LR1 エネルギー	**LR2 資源・マテリアル**	**LR3 敷地外環境**
BPIm = 0.80 BEIm = 0.18	節水ｺﾏなどに加えて、節水型便器も採用している。 雨水利用をしている。 雨水を循環利用する。中水を利用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	ライフサイクルＣＯ2排出率44%。 燃焼機器を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
(仮称)技術C付属棟新築工事

■使用評価マニュアル:CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
■評価ソフト:　CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q　建築物の環境品質								**3.6**
Q1　室内環境					**0.40**		-	**3.0**
1　音環境				**1.8**	0.15	-	-	**1.8**
1.1 室内騒音レベル			ー	**1.0**	0.40	-	-	
1.2 遮音				**2.2**	0.40	-	-	
	1	開口部遮音性能	ー	3.0	0.60	-	-	
	2	界壁遮音性能	ー	1.0	0.40	-	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	ー	-	-	-	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	ー	-	-	-	-	
1.3 吸音			ー	**3.0**	0.20	-	-	
2　温熱環境				**2.1**	0.35	-	-	**2.1**
2.1 室温制御				**3.2**	0.50	-	-	
	1	室温	ー	3.0	0.38	-	-	
	2	外皮性能	窓システムSC=0.352、U=3.29(W/m2K)、外壁その他:外壁 U=0.82(W/m2K)、屋根 0.39(W/m2K)	4.0	0.25	-	-	
	3	ゾーン別制御性	ー	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御			ー	**1.0**	0.20	-	-	
2.3 空調方式			ー	1.0	0.30	-	-	
3　光・視環境				**4.3**	0.25	-	-	**4.3**
3.1 昼光利用				**4.2**	0.30	-	-	
	1	昼光率	2.5%≦ [昼光率]	5.0	0.60	-	-	
	2	方位別開口	ー	-	-	-	-	
	3	昼光利用設備	ー	3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				**4.0**	0.30	-	-	
	1	昼光制御	ブラインドと庇を組み合わせることでグレアを制御します。	4.0	1.00	-	-	
3.3 照度			照度が500lx以上1000lx未満。	**4.0**	0.15	-	-	
3.4 照明制御			1作業単位で照明制御でき、かつ、端末・リモコン等で調整できる、または自動照明制御ができる。	**5.0**	0.25	-	-	
4　空気質環境				**3.6**	0.25	-	-	**3.6**
4.1 発生源対策				**4.0**	0.50	-	-	
	1	化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気				**2.8**	0.30	-	-	
	1	換気量	居室の換気量は30㎥/h人以上。	4.0	0.33	-	-	
	2	自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/50以上	3.5	0.33	-	-	
	3	取り入れ外気への配慮	ー	1.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				**4.0**	0.20	-	-	
	1	CO_2の監視	CO2センサー設備を整備している。	5.0	0.50	-	-	
	2	喫煙の制御	ー	3.0	0.50	-	-	
Q2　サービス性能				ー	**0.30**	-	-	**3.5**
1　機能性				**3.4**	0.40	-	-	**3.4**
1.1 機能性・使いやすさ				**2.6**	0.40	-	-	
	1	広さ・収納性	ー	1.0	0.33	-	-	
	2	高度情報通信設備対応	OA機器用コンセント容量が40VA/m2以上	4.0	0.33	-	-	
	3	バリアフリー計画	ー	3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				**5.0**	0.30	-	-	
	1	広さ感・景観	事務室の天井高2.9m以上	5.0	0.33	-	-	
	2	リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース＋自動販売機等の設置	5.0	0.33	-	-	
	3	内装計画	親しみを感じ、有機的でストーリー性を持たせたデザイン	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				**3.0**	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計	ー	3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保	ー	3.0	0.50	-	-	
2　耐用性・信頼性				**3.0**	0.30	-	-	**3.0**
2.1 耐震・免震・制震・制振				**3.0**	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	ー	3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能	ー	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				**3.1**	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	評価方法基準で等級2相当	4.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	ー	2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ー	3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	ガルバリウム鋼板ダクトを採用している。	4.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	ー	3.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				**3.2**	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	屋内機は防振吊金物とする。	4.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	ー	3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	ー	3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	ー	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	ー	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
		1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
		2	空間の形状・自由さ	―	3.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり			―	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性				4.6	0.40	-	-	
		1	空調配管の更新性	外部空調配管、天井スペースが確保されることによって、構造部材だけでなく仕上げ材を痛めることなく空調配管の更新・修繕ができる。	4.0	0.20	-	-	
		2	給排水管の更新性	床点検口_仕上げ材・躯体損傷なく更新メンテナンス可能。	5.0	0.20	-	-	
		3	電気配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線、OAフロア内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
		4	通信配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線、OAフロア内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
		5	設備機器の更新性	主要設備機器の更新に対応したルート又はマシンハッチが確保され、かつ更新・修繕時に建物機能を維持できる状況。	5.0	0.20	-	-	
		6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースが計画的に確保されている。	4.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境（敷地内）				―	0.30	-	-	4.5
1	生物環境の保全と創出			外構緑化指数が65.32%，建物緑化指数が24.04%	5.0	0.30	-	-	5.0
2	まちなみ・景観への配慮			植栽により、良好な景観を形成している。	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			―	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			空地率が64.40%，屋根面対策面積率が5.01%	4.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性					-		-	4.1
LR1	エネルギー				―	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制			BPIm = 0.80	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用			―	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化			BEIm = 0.18	5.0	0.50	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価				5.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価				-	-	-	-	
4	効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
		4.1	モニタリング	―	3.0	0.50	-	-	
		4.2	運用管理体制	―	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価				-	-	-	-	
		4.1	モニタリング	―	-	-	-	-	
		4.2	運用管理体制	―	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル				―	0.30	-	-	3.9
1	水資源保護				4.1	0.20	-	-	4.1
	1.1 節水			節水ｺﾏなどに加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.3	0.60	-	-	
		1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用をしている。	4.0	0.70	-	-	
		2	雑排水等利用システム導入の有無	雨水を循環利用する。中水を利用している。	5.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減				3.9	0.60	-	-	3.9
	2.1 材料使用量の削減			―	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			―	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			―	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			床: タイルカーペット，床フローリング材，断熱材	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			持続可能な森林から産出された木材の使用比率が50%以上。	5.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			PCスラブと木製OAフロアを使用している。	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が2ある。	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-	
		1	消火剤	―	-	-	-	-	
		2	発泡剤（断熱材等）	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	4.0	0.50	-	-	
		3	冷媒	―	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境				―	0.30	-	-	4.0
1	地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率44%。	5.0	0.33	-	-	5.0
2	地域環境への配慮				3.9	0.33	-	-	3.9
	2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			「LR1エネルギー」のスコア(評価結果)が4.4	4.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	
		1	雨水排水負荷低減	「雨水活用技術規準」（日本建築学会）に示された「基本蓄雨高100㎜」に必要な蓄雨高を敷地内で確保している。	5.0	0.25	-	-	
		2	汚水処理負荷抑制	―	3.0	0.25	-	-	
		3	交通負荷抑制	―	1.0	0.25	-	-	
		4	廃棄物処理負荷抑制	―	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
		1	騒音	―	3.0	1.00	-	-	
		2	振動	―	-	-	-	-	
		3	悪臭	―	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
		1	風害の抑制	―	3.0	0.70	-	-	
		2	砂塵の抑制	―	-	-	-		
		3	日照阻害の抑制	―	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの全ての配慮事項を満たしている。	5.0	0.70	-	-	
		2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	―	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版　　(仮称)技術C付属棟新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2　サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	–	○	○	○	○	–	–	–	–					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		–	○	–	–	○	–	–	○	–	○	–	–	–
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		–	–	–	–	○	–	–	○	–	○	○	○	–
2.4.1 空調・換気設備	1.0		○	–	–	○	–								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	–	–	–	○	–	–						
2.4.3 電気設備	1.0	–	–	–	–	○	–	–							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	–	○	–	–	–							
Q3　室外環境(敷地内)															
1　生物資源の保全と創出	13.0		–	2.0	3.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	–		
2　まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	–	1.0	1.0	–							
3.1　地域性への配慮、快適性の向上	2.0		–	–	–	–	1.0	1.0	–	–					
3.2　敷地内温熱環境の向上	14.0		–	2.0	2.0	3.0	1.0	2.0	2.0	–	2.0				
LR1 エネルギー															
2　自然エネルギー利用	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			○	–	○	–	–	○	○	–					
2.1　材料使用量の削減	–		–	–	–										
2.3　躯体材料におけるリサイクル材の使用			–	–	–	–	–								
2.6　部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		–	○	○	–									
3.1　有害物質を含まない材料の使用	2.0														
LR3 敷地外環境															
2.2　温熱環境悪化の改善	13.0		1.0	–	3.0	–	3.0	1.0	2.0	2.0	1.0	–			
2.3.3 交通負荷抑制	–		–	–	–	–	–	–							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		–	1.0	1.0	–		–	–						
3.2.2 砂塵の抑制	–		–	–											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1　室内環境

2.1.3 外皮性能
窓システムSC　0.4　窓の日射熱取得率(η) 0.3
U値(W/m2K)　窓システム 3.3　屋根 0.4　外壁 0.8　床 –
住戸部分　窓システムU値 –　外皮UA値 –　ηAC –　ηAH –

3.1.1 昼光率
昼光率　7.8%

4.2.2 自然換気性能
自然換気有効開口面積率　2.5%

Q2　サービス性能

1.1.1 広さ・収納性
執務スペース　.0㎡/人　病床　.0㎡/床　シングル　.0㎡　ツイン　.0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応
コンセント容量　40.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観
天井高　3.56 m

1.2.2 リフレッシュスペース
リフレッシュスペース　5.9%　レストスペース　0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数
想定耐用年数　50 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
想定必要間隔　0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
想定必要間隔　0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔
想定必要間隔　0 年

3.1.1 階高のゆとり
階高　4.2 m

3.1.2 空間の形状・自由さ
壁長さ比率　0.0%

3.2　荷重のゆとり
床荷重　– N/m2

Q3　室外環境(敷地内)

1　生物資源の保全と創出
外構緑化指数　65%　建物緑化指数　37%

3.2　敷地内温熱環境の向上
空地率　64%　水平投影面積率　22%　地表面対策面積率　45%　舗装面積率　28%

LR1　エネルギー

1　建物外皮の熱負荷抑制
BPI/BPIm　0.80　断熱等性能等級　対象外 相当

2　自然エネルギー利用
自然ｴﾈﾙｷﾞｰ直接利用量　0 MJ/年㎡　採光を満たす教室数　0.0%　採光を満たす住戸数　0.0%
通風を満たす教室数　0.0%　通風を満たす住戸数　0.0%

3　設備システムの高効率化
太陽光　40.5kW　太陽熱等 –　蓄電池 –

非住宅部分
BEI/BEIm　再エネ有　0.18　無　0.18　ｵﾌｻｲﾄ再エネ有　–　–

集合住宅の評価
一次エネ削減率　再エネ有　無　–

LR2　資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無
雨水利用率　–

2.4　躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
特定調達品目　断熱材,ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ,ｴｺﾏｰｸ商品　タイルカーペット　自治体指定の特定品目等　–

2.5　持続可能な森林から産出された木材
使用比率　74.4%

3.2.1 消火剤
オゾン層破壊係数(ODP)　地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)
オゾン層破壊係数(ODP)　0　地球温暖化係数(GWP)　3

3.2.3 冷媒
オゾン層破壊係数(ODP)　地球温暖化係数(GWP)

LR3　敷地外環境

2.2　温熱環境悪化の改善
見付面積比　13%　隣棟間隔指標Rw –
地表面対策面積率　54.0%　屋根面対策面積率　5.0%　外壁面対策面積率　11.0%
見付面積Sb　351㎡　卓越風向と直交する最大敷地幅Ws　140.47 m　基準高さHb　18.94 m
緑地　691㎡　水面　㎡　保水性対策面　㎡　高反射対策面　㎡　再帰性反射対策面　㎡